

専修学校職業実践専門課程 第三者評価モデル事業について

川口 昭彦

大学評価・学位授与機構 顧問・名誉教授
専門職高等教育質保証機構 代表理事

2015.5.20

職業実践専門課程の質保証・向上
第三者評価モデル事業説明会

第三者評価モデル事業

2

- モデル事業に関する資料
- 事業の背景(2015.2.26 Power Point 原稿)
- 第三者評価モデル事業の内容
 - 事業の目的(評価基準要綱)
 - 基本的方針(評価基準要綱)
 - 評価基準(評価基準要綱)
 - 対象学校における自己評価の方法および自己評価報告書の作成(自己評価実施要項)
 - 機構における評価の方法とスケジュール(自己評価実施要項および評価実施手引書)
- まとめ

QAPHE

モデル事業に関する資料

3

- 専修学校職業実践専門課程第三者評価試行 評価基準要綱
- 専修学校職業実践専門課程第三者評価試行 自己評価実施要項
- 専修学校職業実践専門課程第三者評価試行 評価実施手引書
- 専修学校職業実践専門課程第三者評価について(2015.2.26 Power Point 原稿)

QAPHE

4

事業の背景

高等教育の国際的な流れ
「教育の質保証文化」の醸成
専門学校に求められる質保証

QAPHE

高等教育の国際的な流れ

5

- 知識社会における専門職高等教育に対する期待：高度な知識技能を有する市民・労働者への需要
- 高等教育の大衆化・ユニバーサル化そして流動化
- 国際的な教育機関間の競争－高等教育の国際化、グローバル化、ボーダレス化
- 教育パラダイムから学習パラダイム(「何を教えるか」から「何ができるようになるか」)へ
- 諸活動の「質保証(評価)」に対する社会的要請

QAPHE

教育の質保証

6

- 小学校・中学校・高等学校等では、学習指導要領等によって教育内容の一定の質が担保されている。
- 大学については、設置審査等でインプットやプロセスを明確に評価(事前規制)した上で、自律性と学問の自由の中で行う質保証(事後チェック)である。
- 専門学校は実践的な職業教育を目的とするものであり、職業に必要な能力、知識、技能、態度など(アウトカムズ)に係る質保証の視点を踏まえた評価が肝要である。

QAPHE

質保証(評価)文化とは

7

- 質保証(評価)情報を自ら価値づけ、自らの責任で次の活動を選択していくこと。
- 質保証(評価)結果に基づいて、諸活動の質の改善・向上を図り、説明責任(アカウントビリティ)を確保することが、社会的な流れとなっている。
- 「評価」の主要目的は、「質保証」である。
- 質保証(評価)の考え方、内容、方法などは、社会的環境の変化とともに、「進化」しなければならない。

QAPHE

専門学校に求められる質保証

8

- 養成しようとしている人材像、期待できる学修成果などを明示する。
- 目的・目標としている人材像や学修成果が、どの程度達成されているかを定期的に評価する。
- 学校の質を自ら保証する内部質保証システムを構築し、それを十分機能させる。
- 積極的な情報提供(評価結果も含む)を行う。
- 第三者質保証(評価)では、その内部質保証システムが機能し、質の改善・向上が絶えず図られていることを検証する。

QAPHE

専門学校の第三者質保証システム

9

- 専修学校設置基準、関連法令・規則等および職業実践専門課程の認定要件に適合していることを認定する。
- 学校(あるいは課程)が目的・目標としている学修成果等が達成されているかどうかを評価する。
- 学校が組織内部の質保証体制を整備し、それが機能し、絶えず質の改善・向上が図られているかを評価する。

QAPHE

事業の内容

事業の目的

評価基準

スケジュール

基本の方針

自己評価のプロセス

QAPHE

事業の目的(評価基準要綱 p. 2/6)

- 専門職高等教育質保証機構が定める評価基準に基づいて、専修学校職業実践専門課程を定期的に評価することによって、その教育活動の質を保証する。
- 学校の教育活動等について多面的な評価を実施し、評価結果を当該学校にフィードバックすることによって、その教育活動等の改善・向上に資する。
- 学校の活動について、広く国民の理解と支持が得られるよう支援・促進していくために、その教育活動等の状況を多面的に明らかにし、それを社会に示すことによって、社会的説明責任を果たす。

QAPHE

基本の方針(評価基準要綱 p. 2/6)

- 専門職高等教育質保証機構が定める評価基準に基づく評価
- 学修成果(ラーニング・アウトカムズ)を中心とした評価
- 学校の個性の伸長に資する評価(学校の目的・目標を踏まえた評価)
- 自己評価に基づく評価
- ピア・レビューを中心とした評価
- 透明性の高い開かれた評価(意見申立て制度)
- 国際通用性のある評価

QAPHE

評価基準(評価基準要綱 p. 3/6~6/6)

評価基準は、五基準から構成され、基準ごとに基本的な観点(24項目)が設定されている。

- 基準1 目的・目標の設定および入学者選抜(5項目)
- 基準2 専修学校設置基準および美容師養成施設指定規則の適合性(8項目)
- 基準3 職業実践専門課程の選定要件の適合性(3項目)
- 基準4 内部質保証(4項目)
- 基準5 学修成果(4項目)

QAPHE

自己評価のプロセス(自己評価実施要項)

14

- 学校の目的・目標の記載(p. 5/20)
- 基準1～5の自己評価(p. 6/20～7/20)
 - 観点ごとの分析
 - 優れた点および改善を要する点の記述
 - 概要の記述
- 自己評価書の作成(p. 8/20～9/20)
 - 学校の現況および特徴
 - 学校の目的・目標
 - 基準ごとの自己評価

QAPHE

「観点ごとの分析」の際の留意点

15

- 「基本的な観点到に係る状況」については、目的・目標との関連を踏まえて、取組や活動の内容等の客観的事実を、根拠となる資料・データ等を示しつつ、具体的に記述する。
- 「分析結果とその根拠理由」は、それを導いた理由を、「基本的な観点到に係る状況」に記載した取組や活動の内容等の客観的事実を示しつつ記述する。
- 根拠となる資料・データ等の例示は、p. 11～15/20を参照ください。

QAPHE

スケジュール(自己評価実施要項p. 10/20)

16

- 第三者評価に関する説明会(2015.2.26)
- 第三者評価の申請受付
- 対象学校の自己評価担当者に対する説明会・研修会(2015.5.20)
- 自己評価書の提出(2015.8末日締め切り)
- 訪問調査(2015.11)
- 評価結果(案)の対象学校への通知(2015.12)
- 評価結果(案)に対する意見の申立て(2016.1末日締め切り)
- 評価結果の確定・公表(2015.3下旬)

QAPHE

17

まとめ

何のための学校評価か？
相互の信頼から社会の信頼へ

QAPHE

何のための学校評価か？

18

- 学校における諸活動の質改善・向上 (Quality Enhancement) と質保証 (Quality Assurance) が目的である。
- 「評価」は、上記の目的を達成するために必要な手段である。評価そのものが目的化してはならない。
- 学校と第三者質保証機関の協働作業 (緊張感をもった) である。

QAPHE

Quality Assurance

Trust and Recognition

19

- Trust
 - 信頼、信用: 社会の信頼 (Public Trust)、相互の信頼 (Mutual Trust)
 - (信頼により生じる) 責任、義務
- Recognition
 - (人・ものをそれだと) 認識、識別 ⇒ 個性化
 - (業績などへの) 評価、称賛 ⇒ Evaluation
 - (組織・文書などへの法的な) 承認、認可 ⇒ Accreditation

QAPHE

相互の信頼から社会の信頼へ

20

- 第三者質保証 (評価) においては、学校と質保証 (評価) 機関の相互信頼 (Mutual Trust) が、基本となる。
- 学校の自己点検・評価および学校関係者評価の積み上げを踏まえた第三者質保証 (評価) でなければならない。
- 学校自らの「内部質保証」および第三者による「質保証」が、社会の信頼 (Public Trust) につながる。
- 「質」の最も必要なものは、学修成果 (学習者が身につけた能力、知識、技能、態度など) である。

QAPHE